

二〇〇七年を迎えるにあたって



津市消防長
野田 重門

輝かしい新年を迎えるにあたり、皆様のご健勝を心よりご祈念申し上げます。

日頃は、本市消防行政全般にわたり格段のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年一月一日には、全国の市町村合併ではあまり例のない二市六町二村の十市町村が合併し、新たな「津市」が誕生して、早や一年が経過しようとしています。

またこの合併に伴い、二消防本部（旧津市消防本部と旧久居地区広域消防組合消防本部が統合し、新たに津市消防本部が発足しました。管内人口は約二十九万人余で、面積は約七百十平方キロメートルとなり、県下最大の市域を有することになりました。この広大な管内で発生する災害に対して、的確・迅速に対応していくために、新組織体制で臨んでまいりました。その間、当市においては幸いにも、風水害などを含め、大きな災害もなく、新年を無事に迎えよう

としております。

しかし、いざ全国に目を転じますと、昨年十二月から本年三月にかけての日本海側で記録的な大雪による平成十八年豪雪、また一月には長崎県内の特別養護老人福祉施設で発生した建物火災、九月には宮崎県延岡市で台風十三号による竜巻被害、十一月には北海道の佐呂間町で同じく竜巻が発生し、それぞれの災害で多数の尊い命が犠牲になりました。このように、さまざまな災害が、いつ、どこで、どのような規模で発生するか予測できません。

今後、当消防本部といたしましては、火災をはじめその他の災害や増え続ける救急事案に対しまして、万全の体制を整え、消防防災体制の充実強化をめざして、組織を挙げて取り組んでまいります。皆様におかれましては、「安心・安全な街づくり」を進めるため、今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新しい年が皆様にとりまして、平穏で充実した一年でありますよう心からご祈念申し上げます。



芸濃消防団紹介



津市芸濃消防団長
白井 美樹

昭和三十一年九月に、椋本村、明村、安西村、雲林院村、河内村の五村が合併して芸濃町となり、当消防団も誕生しました。

これに伴って各村に所在していた消防団も芸濃町消防団として一元化され、以来、本年一月一日の津市との合併までの四十九年間、歴代消防団長をはじめとして、諸先輩方の絶え間ない努力により、町民の身体・財産を災害から保護し、日夜を通して活動してまいりました。

歴史的にみると、芸濃町は旧伊勢別街道の宿場町として栄えこれに伴って石山観音群や龍王桜などの多くの史跡を有しています。また面積の約三分の二が山岳部という地形から、四季折々の風光明媚な景観が楽しむことができ、特に紅葉の季節には、安濃ダム周辺に多くの観光客が訪れます。

このようにこの地域は、山間が大部分を占めるため、消防団としては林野火災対策に重点を置き、一年を通じて、各種訓練に励んでおります。また、女性団員の採用により、定数の増加が図られ、女性ならではのきめ細かい消防団活動へも、市民の期待は大きいと考えています。

さらに、本年七月二十二日には、三重県消防学校（鈴鹿市）において、平成十八年度三重県消防操法大会の小型ポンプの部に出場し、幸いにも三位入賞という栄誉を勝ち得ることができ、新生「津市」のスタートに花を添えることができました。



小型ポンプの部 訓練開始！
(県消防操法大会にて)



防災訓練での火災防ぎよ

今後も、「郷土を護る」という消防団の使命は、いささかわることなく、使命完遂に向かって、全団員が一致協力して、最善の努力を積み重ねてまいります。いと決意を新たにしております。